

平成20年度末木曾馬調査 報告

木曾馬保存会事務局

平成21年2月末現在の飼育頭数（飼育者と連絡が取れ、生存の確認できる馬）は149頭で、内訳は開田地区内46頭（増減なし）、木曾郡内（開田地区を除く）11頭（2頭減）、長野県内（木曾郡を除く）22頭（1頭増）、岐阜県33頭（3頭減）、その他37頭（3頭増）である。飼育戸数は68軒で飼育頭数、飼育戸数共に昨年よりもわずかではあるが増加している。このほかにも飼育しているが、連絡が取れない等の事由によりカウントしていない馬もいる。

登録では20年度は9頭（2頭増）の血統登録を行った。

20年度の種付け状況及び21年度の出産予定状況に関して、20年度は種付け数が19年度よりも減少し、「豊桜号」7頭（増減なし）、「鈴風号」5頭（2頭減）、「栄宝号」2頭（1頭減）、「清山号」0頭（増減無）、「風恋号」0頭（1頭減）、「群司号」0頭、「翠寿号」4頭の計18頭である。昨年から供用された2頭であったが、翠寿号は4頭に種付けを行ったものの、群司号は0頭、幸葵号の後継馬として2頭の活躍に期待したいところである。また、来年度は木曾町内と岐阜県内で合計2頭の雄馬を種雄馬候補として残している為に検査を行う予定。近親交配が危惧される中、より多くの系統を残していければと考える。また、21年度の種付け予定馬の頭数は保存会員25頭、会員外10頭の合計35頭で種付け数は増える見込みである。特に保存会員ではないが公共施設等で飼育の木曾馬の繁殖申し込みが数件来ており今後の保存事業に期待がかかることである。

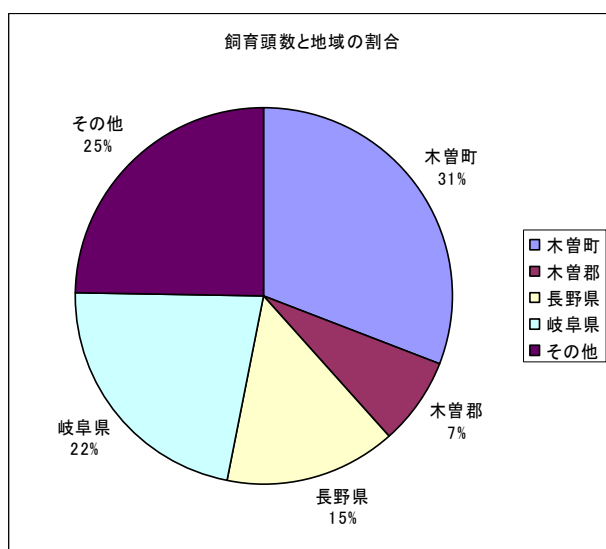
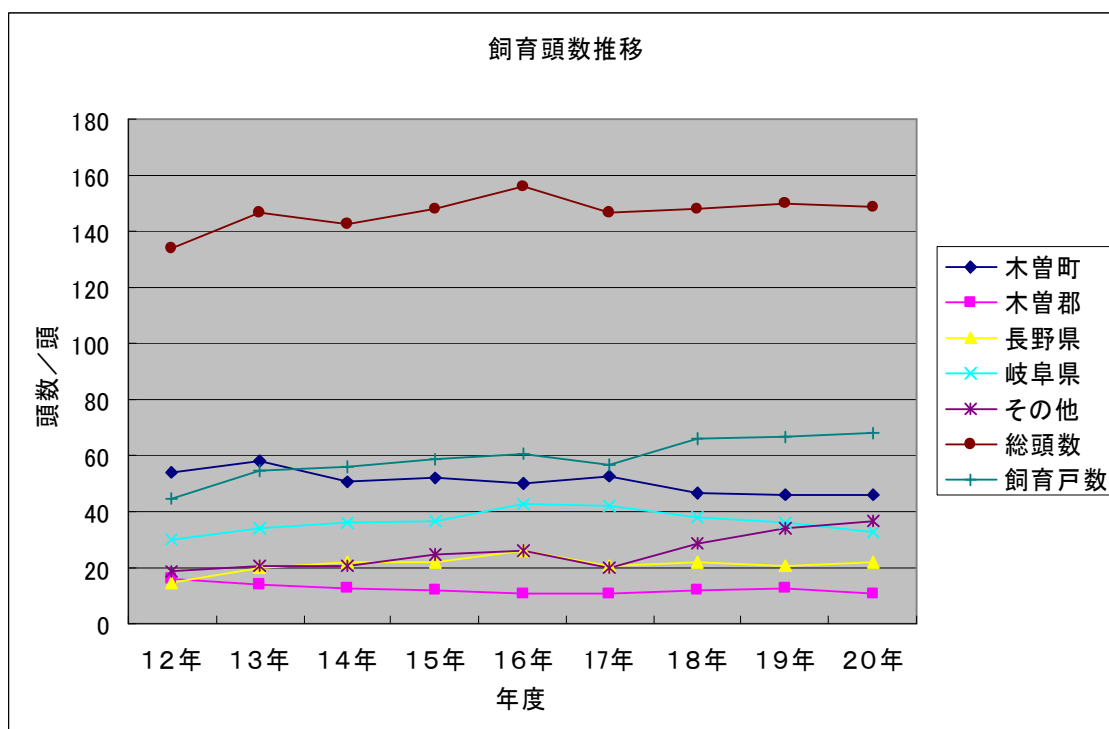
平成21年度の出産予定数は14頭で前年よりも増加の予定。

20年度の木曾馬の販売・譲渡の状況は搬出記載が12頭に対し搬入記載が1頭と10頭あまりの馬の新規飼育者等が不明のままである。

近年の傾向として次項表でも分かるように、保存エリアとされる中部山岳地域を中心とするエリアが飼育者の高齢化に伴い多少の減少傾向にあるに伴い、その馬たちがその他の地域に流出し飼育されている現状があり。販売による飼育者不明馬が多いこと、今年度の場合は死亡馬が例年よりも多いことにより飼育頭数の減少が減少した。毎年のことではあるが、生産頭数は比較的安定しているものの、行き先不明馬が多いためここ数年の木曾馬全体での飼育頭数は横ばいなので、できる限り木曾馬の頭数の把握が出来、いざ頭数が減った時の活路を見出せるようにする為にも行き先の記載をお願いしたいところである。

飼育頭数の推移

	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
木曾町	54	58	51	52	50	53	47	46	46
木曾郡	16	14	13	12	11	11	12	13	11
長野県	15	20	22	22	26	21	22	21	22
岐阜県	30	34	36	37	43	42	38	36	33
その他	19	21	21	25	26	20	29	34	37
総頭数	134	147	143	148	156	147	148	150	149
飼育戸数	45	55	56	59	61	57	66	67	68



飼育頭数の割合の変化

(19年～20年度)

木曾町(旧開田) 30% > 31%

木曾郡 9% > 7%

長野県 14% > 15%

岐阜県 24% > 22%

その他 23% > 25%

その他の地域では年々飼育割合が増加している。